

県指定 天然記念物

沖黒島の自然林



沖黒島は、米水津と蒲江の境界線上に位置する周囲1.6kmの無人島で切り立った断崖に囲まれている。島全体がよく保存された原生林で、ヤブニッケイ、バクチノキ、ホルトノキ、ヒゼンマユミなどがうっそうと繁り、林内はノシランが密生し、キノクニスゲも多い。灯台への道には亜熱帯系の植物を含む珍しい草木が見られ、島の南側と北側の斜面には10数本のビロウが自生している。この島にはドングリをつけるブナ科の植物が全く見られないのが特徴である。また、この島は鳥獣保護区に指定されており、カワウ、オオミズナギドリの繁殖地となっている。